

## 診療看護師（NP）

2020年11月20日

### 一般社団法人日本NP教育大学院協議会

一般社団法人日本NP教育大学院協議会（以下、NP教育大学院協議会）は、診療看護師（NP）、「本協議会が認めるNP教育課程を修了し、本協議会が実施するNP資格認定試験に合格した者で、患者のQOL向上のために医師や多職種と連携・協働し、倫理的かつ科学的根拠に基づき一定レベルの診療を行うことができる看護師」の育成を推進している。

日本NP教育大学院協議会は、養成教育開始（2008年）直後は、「ナースプラクティショナー（NP）」の名称を用いていたが、広く国民の理解を求める必要があると考え、NPの日本語名称として「診療看護師（NP）」を用いることとした。

### 解説

#### 1. 診療看護師（NP）の役割

診療看護師（NP）の役割は、医師、薬剤師等の他職種と連携・協働を図り、一定レベルの診療を自律的に遂行し、患者の「症状マネジメント」を効果的、効率的、タイムリーに実施することにより患者のQOLの向上を図ることである。医療施設や在宅医療の場で、個々の患者の症状に対応した「症状マネジメント」をタイムリーに実施していくことにより疾病の重症化等を防止し、患者のQOLの向上を図ることができる。

日本NP教育大学院協議会では、診療看護師（NP）が、一定レベルの診療を、倫理面の配慮をし、科学的根拠に基づき提供できるようにするために、診療看護師（NP）の基本的能力として7つの能力を備えることを目指して、大学院での教育を推進している。

診療看護師（NP）が提供できる一定レベルの診療の範囲、程度に関しては、診療看護師（NP）の活動実績、社会のニーズ等を踏まえ、医療界の合意を得て、決定していく。

## 2. 診療看護師（NP）に必要とされる能力

- 1) 包括的健康アセスメント能力
- 2) 医療処置・管理の実践能力
- 3) 熟練した看護実践能力
- 4) 看護マネジメント能力
- 5) チームワーク・協働能力
- 6) 医療保健福祉制度の活用・開発能力
- 7) 倫理的意思決定能力

日本NP教育大学院協議会では、養成課程（大学院修士課程）において、上記7つの能力を修得したことを確認するために、2011年から「NP」資格認定試験を実施しており、2020年3月で487名の合格者を社会に輩出している。

## 3. 診療看護師（NP）の養成課程

一定レベルの診療行為を自律的に実践していくためには、①フィジカルアセスメント、②臨床薬理、③疾病論を含む医学の基礎的な知識・技術を修得したうえで、臨床推論に基づき的確な診療行為が提供できる知識・技術等が不可欠とされる。このため、診療看護師の教育は、大学院修士課程（実践者育成コース）で行うこととし、教育の標準化を図るために日本NP教育大学院協議会では、養成教育（大学院）の課程認定を行い、さらに、診療看護師（NP）としての質の担保のために、大学院修了者の「NP 資格試験基準」に基づき、大学院修了時に資格（診療看護師（NP））認定試験を行っている。

なお、教育の標準化を図る一環として、①入学時の「能力確認試験」、②実習に先立つ、OSCEを含む「実習前試験」の実施を推奨している。

以上